

シリーズパソコン周辺機器 ②⑥

『レガシーデバイス』

宮杉 浩

図書館ではこの夏、検索用コンピュータやプリンタを大幅に入れ替えました。検索スピードや操作性が格段に向上していますので、大いに利用していただきたいと思います。そしてその作業に携わっている中で印象的だったのは新しいパソコンにはUSBポートはあっても、古いプリンタやキーボードを接続するためのポートがなくなっていることでした。これら旧タイプのデバイスのことを「レガシーデバイス」と呼んでいます。今回はその「レガシーデバイス」についてお話したいと思います。

「デバイス」とは周辺機器の総称で、それをパソコンに接続するインターフェイスを「ポート」と言います。近年の急速な進歩と変化により、パソコンに搭載されるポートがUSB中心となり、今まで使われてきたポートが搭載されなくなっていることが「レガシーデバイス」の要因となっているのです。

キーボードやマウスをつなぐポートの中心であったPS/2ポートは「レガシーデバイス」の代表格と言えます。コネクタの形状がより小型のUSBポート、無線で接続できるBluetoothの普及により、PS/2ポートを搭載しないパソコンが増えています。また、プリンタや外付けハードディスクを接続するために用いられてきたパラレルポートやSCSI（スカジー）ポートも近年パソコンに搭載されなくなっています。このような動きは「レガシーフリー」と呼ばれています。

「レガシーフリー」の問題として従来使用してきたシステムや周辺機器が使えなくなること、そしてそれを変更するには、規模に応じて相応のコストがかかるということが挙げられます。そのため各機器メーカーは一般ユーザー向けのパソコンと企業や各機関向けのパソコンでは仕様を変え、後者には要望に応じて「レガシーデバイス」に対応したパソコンを販売・提供するような施策を行っています。ただ「レガシーデバイス」にこだわって運用することは、近年のより高速化したLAN環境などに適応できないなどの問題を生み、業務効率やサービス向上の妨げの要因になることも指摘されています。

このコーナーでも取り上げたフロッピーディスクもドライブが標準で搭載されているパソコンはまず見なくなってしまいました。プリンタ・スキャナをつなぐにも今やみなUSB接続です。キーボードやマウスに至ってはコードレスが進んでUSBタイプですら「レガシーデバイス」と呼ばれてしまうこともあるそうです。日々急速に進歩するコンピュータの世界ですが、それに追隨していくためには今まで使っていたものを切り捨てていかなければならないということに関して、やむを得ないこととはいえ、資源面・コスト面から見ると複雑な心境を抱く方もおられるのではないのでしょうか。今後のさらなる技術の進歩によってまた新たな「レガシーデバイス」が生まれだされていくことでしょうか。私もその動向をより注視して見守っていきたいと思います。

みやすぎ ひろし（係長補佐・管理運営課）